

学校教育評価表（小・中学校）					評価委員会 評価値	いただいたご意見
学校名		大津市立 唐崎中学校				
画の基準（3：よくできた 2：できた 1：あまりできなかった 0：まったくできなかった）						
項目	評価の観点		自己評価 (3・2・1・0)		3	
主体的・対話的で 深い学び	1	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	3	改修後の新しくなった教室で、意欲的に学習に取り組む姿が見られた。わからないことや考えを聴き合う授業から、互いに支え合える関係が育まれている。また、行事の事前・事後学習では、ICTを効果的に活用して情報を整理したり、意見を交流したりする中で、コミュニケーション能力を育成する取組ができた。生徒たちの主体的・対話的で深い学びを追究するために、校内研究や夏季研修会を実施し、グループ活動を取り入れた指導方法の工夫・改善を日々積み重ねることができた。生徒一人ひとりが活き活きと活動する授業をめざし、研究や研修会を進めていきたい。		
	2	協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善（ICTの活用含む）	3			
	3	主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会	3			
道徳教育の 充実	4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳の実践力を育てる活動の実施	3	「特別の教科道徳」となり、現場で対応するための研修をしていた時期が過ぎ、指導者もある程度余裕を持って授業に臨み、評価にも取り組むことができていた。そのような経験もあり、かえって、50分「道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流」の評価も、低く出たと推測される。	3	
	5	道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流	2	これまで研修を深め、エカウンターやローテーション道徳などの実践を重ねてきたが、次年度はこれらをもふまえ、他学年でも共有できる資料を充実していきたい。		
	6	保護者等への道徳科の授業公開	3			
体力づくり	7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	2	部活動において、各部の大会だけでなく、各校代表として出場した駅伝では、全国大会出場を果たすなど、決して体力づくりに取り組んでいないわけではない。しかし、長寿美化工事の影響で体育館館の活動が大きく制限を受けていることや、働き方改革の一環として、部活動の活動時間の大幅な削減などが、自己評価が低く出たことの原因ではないかと考察される。	2	
	8	体力づくりを推進する運動実践	2			
	9	体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成	2	保健体育の授業においても、走る運動よりも、楽しく取り組める授業実践を推奨されていることから、以前に比べて授業の準備運動などで体力を向上させる運動を行っていない理由がある。		
指導改善 (組織的・計画的)	10	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	2	学力向上を目指した指導体制・年間を通してキャリア学習に取り組むことで、将来に向けての意欲を持って学ぶことに継続実施している。ただ、学力向上が結果として数値に表れない生徒もあり、そうした生徒に対して粘り強く、丁寧に指導していく必要がある。指導方法の工夫改善においては、これまで推進してきた校内授業研究を学期に一度実施し、外部講師をアドバイザーとして招請することで、教職員相互の授業改善に繋げることができている。特に、校内授業研究会では、目の前の生徒の学びから授業改善を考える形式で議論することが定例化している。	3	
	11	教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	3	教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上については、職員会議で特別研修の時間を設け、教職員の指導力や組織的な教育力に向上することができている。特に、今年度は、「OJT」の観点から若手教員への研修を想定した内容を提供することができた。		
	12	働き方改革の取組と教育活動の質の改善	3	働き方改革の取組と教育活動の質の改善については、教育課程や行事の整理し等、教育活動の精選を図りながら、時間短縮等効率面も考慮しながら学校の教育活動を組織的・計画的に進めることができた。今年度は、相対的に教職員の就業時間短縮が進められている現状があり、その点に関しては、働き方改革がこれまで以上に推進進められた感がある。今後も引き続き、全教職員が働き方改革を意欲して取り組んでいきたい。		
育ちと学びを支える 連携						
① 家庭・地域との 連携・協働	13	保護者の子育てに対する積極的な支援	3	日頃の家庭連絡等、家庭との連携を進んでいった。1、2学期の終わりに全校生徒に三者懇談を実施した。日頃の子育て等に悩む保護者には共感の姿勢で接し、SCや関係機関を紹介し、より専門的な支援に繋げた。また、日々の教育活動や学校の様子について、毎月の学校連絡や学年活動を通じて直接接点をもてる保護者用連絡アプリ「tatoru」を使い、継続して発信した。全校一斉に授業参観を行った。体育大会や合唱コンクールを保護者に公開した。学校運営協議会では毎回熱心に協議いただき、生徒との意見交換も行った。例年、地域の協力のもと寺子屋学習会や赤い羽根共同募金活動を行っている。さらに、地域学校協働活動推進員には地域の人材をキャリア教育講演会の講師として紹介していた。地域で子ども達の学びの場が必要な場面をボランティア活動として紹介していた。子どもたちと地域の人々と交流したり、地域で活躍する場を作っていた。今年度は、学校のまちづくりプロジェクトでは、学校の地域に人々と集う場所を設けることを目標に活動に取り組み、地域の広宣工業より設けに関わる技術指導いただきながら、子どもたちの手で設置を行うことができた。	3	
	14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	3	学校運営協議会では毎回熱心に協議いただき、生徒との意見交換も行った。例年、地域の協力のもと寺子屋学習会や赤い羽根共同募金活動を行っている。さらに、地域学校協働活動推進員には地域の人材をキャリア教育講演会の講師として紹介していた。地域で子ども達の学びの場が必要な場面をボランティア活動として紹介していた。子どもたちと地域の人々と交流したり、地域で活躍する場を作っていた。今年度は、学校のまちづくりプロジェクトでは、学校の地域に人々と集う場所を設けることを目標に活動に取り組み、地域の広宣工業より設けに関わる技術指導いただきながら、子どもたちの手で設置を行うことができた。		
	15	防災教育の推進、感染症対策の推進等、安心・安全な学校づくり	3	防災教育については避難訓練を各学期に1回実施した。今年度は担任以外の授業者が避難訓練を行う実践的な避難訓練を行った。また、3年生では例年通りかまどベッチを活用した防災教育を行う予定である。		
② 保幼小中の 連携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業	2	子どもの校種間交流については、1学期に部活動公開を回数設定し、次年度入學予定の児童ならびにその保護者が参観できる機会を設けた。また、教員の出前授業は2月に実施するが、担当者同士の取組に留まらず、各学年より授業者を受け、実施する予定である。	2	
	17	校種間の授業公開や合同研修会	3	校種間の授業公開については、1月1回小学校へ出向いて、参観する機会を設けている。また、今年度は中学校の授業研究会に小学校教員が出席する機会があった。		
	18	保幼小中の接続期の教育課程の編成等校種間のカリキュラム研究	2	昨年度実施できなかった学区保幼小中合同研修会を、今年度は唐崎支所にて実施することができた。		
組織的体制の充実						
① 生徒指導 体制の 充実	19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導※	3	週1回の生徒指導部会と教育相談部会で、情報共有と様々な問題行動等への対応や未然防止について検討することができた。また、生徒指導部会と教育相談部会が協議した内容を職員に周知することで、共通理解を図るとともに、生徒指導対応や生徒支援の意識を高めることができた。	3	
	20	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※	3	いじめについては、毎月1回「いじめアンケート」と学期に1度「いじめアンケート」を行い、生徒が困っていることを、こまめに把握する機会を設けている。対象となる生徒一人ひとりの教育的ニーズに沿った支援、より活き活きするようになるよう、改善を図った。		
	21	家庭・地域・関係機関との連携による指導	3	不登校の問題については、生徒一人ひとりが安心して学校生活を送ることができるよう、「校内ウイング」と呼ばれる別室を設置し、全職員で運営している。また、大津市子ども・青少年安心課等の関係機関との情報共有を図るよう努め、孤立する生徒がいないようにつとめ、多角的に生徒を支援していけるよう心がけている。		
② 特別支援 教育の 充実	22	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	3	夏の研修会で個別の指導計画や支援のあり方についての研修を行い、学校全体で共有することができたのが良かった。困り感のある生徒の生活での様子や行動の状態を整理することで、支援の方法や手立てを考え、個別の指導計画を作成し学校全体で実践することができた。また、教育支援センターの巡回相談や子ども発達相談センターのアドバイスをいただき、対象となる生徒一人ひとりの教育的ニーズに沿った支援の在り方について、随時特別支援教育部署で情報と共有し、方向性を要約した。校内の通級指導学級も3年目となり、特性に合わせて活用する生徒が増え、通級が学校意欲を高める要因となっている生徒も多い。	3	
	23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	3			
	24	関係機関と連携した相談体制の充実	3			
※ 特にいじめについては、学校基本方針の評価と関連させて行うこと						
学校満足度		児童生徒の学校満足度		3	3	
※ 児童生徒アンケートのすべての評価の平均値（3点満点、小数第2位まで記入）				2.16		
※ 保護者アンケートのすべての評価の平均値（3点満点、小数第2位まで記入）				2.01		